

The Japan News ジャパン・ニュース【by Yomiuri Shimbun 読売新聞】(Sept 24, 2017). "Singaporean becomes 1st foreign oiran festival star."

江戸時代の品川宿のにぎわいを再現する「しながわ宿場まつり」が23日、品川区の旧東海道周辺で始まった。着物姿の女性たちが練り歩く「おいらん道中」には、シンガポール出身のリン・レイチェルさん(27)が初の外国人としておいらんに選ばれ、多くの見物客が見入っていた。

リンさんは華やかな着物をまとい、高げたを履いて時折、弧を描くような独特の足運び「外八文字」を披露した。今回、おいらん役にはリンさんを含めて45人が応募した。実行委員会は2020年の東京五輪を前に外国人にも関心をもってもらおうと5人のおいらん役のうち1人に選んだ。

今年1月に来日し、東京都内の投資会社で働くリンさんは「訪問者ではなく祭りの一部に関わることで日本文化や歴史を深く知りたかった」と応募した動機を話す。ミス・シンガポール代表にも選ばれた経験があるが、今回は高げたを履いた歩き方を身につけるためには何時間も練習したという。おいらんについて当時は華やかな著名人やファッションリーダーとしてみられていた歴史や文化的な背景を知り、「日本人が非常に洗練された形で文化を維持していることに目を開かれる思いだった」という。

まだ、祭りは外国人には参加のハードルが高いのが現状だ。リンさんは「地元の祭りの重要な役で参加することは東京がもっと国際化する中で大きなステップになる」と意気込んだ。

24日には、武士や町人、飛脚などに仮装した約100人がパレードする「江戸風俗行列」が行われる。